

北條直彦 trio

北條直彦 piano
佐藤洋祐 alto sax
吉野弘志 contrabass

2019 01月26日(土)

開場 19:30
開演 20:00~

(2ステージ 入替なし 途中入場可) (1drink=600円~)
MC 3,500 円+2drinks order

CAFE **B**EULMANS
03-3484-0047
info.cafebeulmans@gmail.com
東京都世田谷区成城6-16-5-2F

メールでのご予約の場合、
必ず当日ご連絡がとれる電話番号を
ご記載ください。



佐藤洋祐

大学卒業後にアルトサックスを手にし、数年後にプロとして北海道札幌市を拠点に演奏活動始める。その後2008年に渡米しニューヨークにて盛んに活動、特に男性ボーカリスト、グレゴリー・ポーターの5人編成バンドにおいて唯一の管楽器奏者として在籍し、彼の4枚のアルバムに参加。2011年度から2016年度までの間にグラミー賞を2度受賞、ノミネートも4度果たした。これまでにモンテリオール・フェスティバル、プレイボーイ・ジャズ・フェスティバル、モントルー・ジャズ・フェスティバルなど、数百にも上る世界各国のジャズ・フェスティバル等に参加、サックス奏者として世界的に非常に高い評価を得た。その後2015年末に同バンドを離れ、自己の音楽を追求すべく米国から日本の千葉県佐倉市に拠点を移し現在に至る。日本国内での音楽活動および海外でのジャズフェスティバルやレコーディングなどにも積極的に参加している。サックス・フルート・クラリネット・プレーヤー、シンガー、作曲家、アレンジャー、教育者。



北條直彦

東京芸術大学卒業。作曲、ジャズ研究、ピアノ、現代音楽からジャズ迄、クロスオーバーな守備範囲を持つ。東京文化会館、草月会館、府中の森芸術劇場でオーケストラ曲、室内楽等が演奏されている。ジャズの研究書としてコンテンポラリージャズピアノ(新主流は以降の現代ジャズ技法)第1巻、第2巻、第3巻、インプロビゼーションとアナリゼ。イントロとエンディングの技法(この二つは稲森康利との共著)、実践コード進行法 i, II。ピアニストとして国際音楽の日フェスティバル、横浜ジャズブロンマード、横浜旭区ジャズフェスティバルでは名ヴィブラホン奏者デイブ・パイク氏と共演。NHKスタジオ505、デジタル放送ミュージックバード他出演多数。CD『ワルツフォーデビィ〜オマージュトウービルエヴァンス』『コンセプション』『インヴェンション』等がリリースされている。国際ジャズ教育者協会日本支部常任理事等を歴任。現在、日本音楽舞踊会議理事、同公演局長。日本現代音楽協会会員。キーボードラボ主宰。



吉野弘志

1955年広島市生まれ。1975年に東京芸術大学音楽学部器楽科(コントラバス専攻)に入学。在学中より明田川荘之(piano)トリオのメンバーとしてジャズ・クラブに出演するようになる。1980年、坂田明(sax)トリオに参加、翌年には同グループでヨーロッパ・ツアーをおこなう。以後、富樫雅彦、加古隆、山下洋輔、板橋文夫、塩谷哲、などのグループに参加。現在は、ベース・ソロと『彼岸の此岸』[太田恵資(violin)、鬼怒無月(guitar)、吉見征樹(tabla)]、『吉野弘志モンゴロイダーズ・ネオ』[小森慶子(clarinet, sax)、田中信正(piano)、和田啓(req)]を活動の中心に、自らの民族楽器としてとらえているウッドベースの可能性を追究すべく『張林(揚琴)とのデュオ』、ワード奏者・常味裕司の『アラブ音楽アンサンブルFarha』などに参加している。リーダー作品に『泣いたら湖/吉野弘志・モンゴロイダーズ』[メンバーは林栄一(as)、加藤崇之(g)、小山彰(ds)]と、ベース・ソロアルバム『on Bass』、『吉野弘志 彼岸の此岸/Feeling the Other Side』がある。